



加熱作業の様子。部品に高熱を加えた後、急冷することで強度を高める

株式会社ネツレン・ヒラカタ

独自の熱処理加工技術で
多彩な産業分野に貢献期
納相
オン
リワ
技術
産
量
対業務内容
大手に信頼される
熱処理認定工場

ネツレン・ヒラカタは建設機械や自動車等の部品の中でも、特に強度が必要な鉄鋼部品の加工を手掛けている。得意としているのは「高周波焼入れ焼戻し加工」。部品の表面に電気の熱を加えて急速に加熱した後、冷却することで硬化層をつくり、強度アップを図る加工技術だ。

取引先からの信頼も厚く、業界大手の建設機械メーカーや自動車メーカー数社から、熱処理認定工場の指定を受けている。

強み 千差万別の製品に携わり
培った柔軟な「対応力」

「同社の強みは、一業種のみ偏ることなくさまざまな業種と取引する中で鍛錬してきた「対応力」だ。これまでに携わった製品は、指先サイズの製品から、2t超も重量がある製品までと実に幅広い。個数も1〜2個の小ロットから何千〜何万個という大量注文まで千差万別。また、でき上がった製品は自社で切断し入念に検査し、データと共に保証をした上で納めている。これも同社がメーカー各社から信頼を勝ち得た理由である。

近年は、インターネットを通じて関東や北陸、四国方面からも依頼があり、ほとんどが「他社ではできないので、何とか手伝ってもらえないか」「他社に熱処理を依頼していたがゆがみが予想以上に大きく困っている。何とかできないか」といった内容だという。そんな駆け込み寺的な申し出に対して

も、持てる技術とノウハウで柔軟に対応していくことで、着実に全国へとシェアを広げている。

社作 コイルと治具を
完全自社製作

加工を施す製品の形は多岐にわたる。通常、製品の形状にピッタリと合うコイル（金型）を製作し、製品の規格に合わせて焼入れを施すのだが、同社はコイルと治具をすべて内製している。これにより短納期とコスト低減が可能になるのだ。「治具をいかに簡単かつ精度の高いものにするかでコストも違ってきます。そこが、創業以来ずっと積み重ねてきた当社ならではのノウハウです」と西岡社長は語る。

今後の展望 熱処理から「貫ラインへと
ビジョンを描く」

熱処理加工技術では、どこにも負けないと自負する同社だが、今後は焼入れの際に起こりやすいゆがみや変形をより低減すべく技術開発にも力を注いでいく。「最終的には研磨なしでも使えるほどの高い精度を目指したい」と西岡社長。将来的には熱処理加工から研磨、組立までをトータルに行う一貫ラインへの展開も視野に入れ、高い次元で顧客のニーズに応えるオンラインワン企業を目指している。



ネツレン・ヒラカタ社屋

COMPANY PROFILE

株式会社ネツレン・ヒラカタ

ISO 9001
ISO 14001

ブルドーザー用のピンの専門工場として創業し、建設機械から自動車メーカー等へと、さまざまな業界に取引先を広げていきました。また、「ものづくりの前に人づくり」をモットーにしており、全社員が年間2科目の通信教育を受講している他、資格検定にも果敢にチャレンジしています。今後もお客さまのニーズに正面から向かい合い、たゆまぬ努力を続けていきたいですね。

ものづくりの前に人づくり。良い人材がいなければ、質の高い仕事はできません。

代表取締役 西岡 誠語さん



■主な事業内容
高周波焼入れ焼戻し加工等

■主な取引先（納入先）
建設機械メーカー、自動車メーカー、農業機械メーカー、搬送機メーカー等

住所 / 〒573-0136
枚方市春日西町
2-26-35
TEL / 072-858-4701
FAX / 072-858-4702
創業 / 昭和48年5月
設立 / 昭和48年5月
資本金 / 2,000万円
従業員 / 29名

<http://www.netuhira.co.jp/>